

サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	灰色かび病	炭疽病	苗立枯病	褐斑病	褐紋病	菌核病	うどんこ病	茎腐病	根腐病	さび病	先端黄白化症
Zボルドー水	M1		-	-											◎
タチガレン液	32		*a	3									◎		
トップジンM水	1		1	3	◎			◎	◎						
ベンレート水	1		1	3						◎					
プロバティFL	50		1	3							◎				
カナメFL	7	劇	1	4	◎					◎				◎	
カンタスDF	7		1	2	◎										
ケンジャFL	7		1	2	◎										
パレード20FL	7		1	3	◎				◎	◎					
アミスター20FL	11		1	3	◎				◎	◎					
スクレアFL	11		1	3	◎	◎		◎	◎	◎					
ファンタジスタ顆水	11		1	3	◎					◎				◎	
セイビアーFL20	12		1	3	◎					◎					
ロブラール水	2		1	3	◎										
リゾレックス水	14		7	2								◎			
		*b	1			®					◎				
サブロール乳	3		1	3							◎				
トリフミン水	3		1	5							◎				
ラリー水	3		1	3							◎				
サンヨール乳	M1		1	4	◎						◎				
ペンコゼブFL	M3		*c	2				◎	◎						
ゲッター水	1・10		1	3	◎										
ニマイバー水	1・10		1	3	◎	◎				◎					
シグナムWDG	7・11		1	2	◎						◎			◎	

*a:播種後及び生育期(但し播種後1~2か月後まで) *b:播種時 *c:収穫開始30日前まで
 ®:リゾクトニア菌による病害

サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日 数)	使 用 回 数	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ シ 類	コ ナ ジ ラ ミ シ 類	カ メ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ダ イ ズ ク キ モ グ リ バ エ 類	ウ ラ ナ ミ シ ジ ミ ガ 類	マ メ シ ン ク イ ガ 類	シ ロ イ チ モ ジ マ ダ ラ メ イ ガ 類	ウ リ ノ メ サ ヤ ム シ 類	マ メ ヒ メ サ ヤ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	マ メ ハ ン ミ ヨ ウ 類	ハ ダ セ ン チ ユ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	
ゼンターリ顆水	11A		*b	-										◎										
カルホス粉	1B		*a	1																	◎			
ダイアジノン乳40	1B	劇	*d	3	◎																		◎	
ネマトリンエース粒	1B		*e	1																				◎
マラソン粉3	1B		7	3	◎	◎			モ	◎	◎	◎	◎		◎							◎	◎	
アデオン乳	3A		1	3					ナ	◎						◎	◎	◎	◎					
トレボン乳	3A		1	2						◎							◎		◎					
トレボンEW	3A		1	2						◎							◎							
マブリック水20	3A	劇	1	3		ヒ																		
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	4A		1	2	◎		◎	◎		◎														
アルバリン粒 スタークル粒	4A		*c	1					◎															
モスピラン顆溶	4A	劇	1	3	◎	◎	◎																	
アニキ乳	6		1	3					◎										◎					
アフーム乳	6		3	2															◎					
コルト顆水	9B		1	2	◎																			
ニッソラン水	10A		1	2																				◎
コテツFL	13	劇	1	2															◎					◎
バダンSG溶	14	劇	1	3					ナ	◎														
アタブロン乳	15		1	2															◎					
カスケード乳	15		1	2															◎	◎				
ノーモルト乳	15		1	2															◎					
マトリックFL	18		1	3																◎				
ハチハチFL	21A	劇	1	2					ナ															
フェニックス顆水	28		1	2															◎	◎				
プレバゾンFL 5	28		1	3					◎											◎				
ヨーバルFL	28		1	3																◎				
ウララDF	29		1	2	◎																			

*a:播種時 *b:発生初期(但し収穫前日まで)

*c:生育期(但し収穫14日前まで) *d:収穫開始14日前まで *e:定植前

ナ:ナモグリバエ ヒ:ヒラズハナアザミウマ モ:ハモグリバエ

サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
灰色かび病		1. 過繁茂を避け、適切な整枝を行う。施設では過湿に注意する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤● 1500倍 カンタストライフフロアブル 1000倍 セイビアーフロアブル20 1000倍 トップジンM水和剤● 2000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤 2000倍 ロブラール水和剤● 1500倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
褐斑病	生育期	1. 過繁茂を避け、適切な整枝を行う。施設では過湿に注意する。 2. 次の薬剤を発生初期に散布する。 トップジンM水和剤 2000倍	
	収穫後	・収穫後の茎葉は集めて処分する。	
褐紋病	生育期	1. 過繁茂を避け、適切な整枝を行う。施設では過湿に注意する。 2. 次の薬剤を発生初期に散布する。 トップジンM水和剤 2000倍	褐斑病と混同されがちであるが、本病は葉にやや大型の円形病斑をつくる点で区別できる。
	収穫後	・収穫後の茎葉は集めて処分する。	
うどんこ病	生育期	・発病初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 サプロール乳剤● 1500倍 サンヨール(乳) 500倍 トリフミン水和剤● 3000～5000倍 ラリー水和剤● 4000～8000倍	施設では2月ごろから、露地では4月頃から発生する。特に収穫期にかけて多い。 ●DMI剤は耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
根腐病	播種前	1. 連作を避ける。 2. 登録のある薬剤を確認し、土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。	病原菌は土壌伝染する。
	生育期	・発生を認めたら次の薬剤を土壌灌注する。 タチガレン液剤 500～1000倍 3ℓ/m ²	

サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	生育期	1. 施設では近紫外線除去フィルムを展張し、開口部には目合い1mm以下の防虫ネットを張る。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ダイアジノン乳剤40 1000倍 マラソン乳剤* 2000~3000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	* 豆類(未成熟)での登録
ナモグリバエ	生育期	1. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを株元に散布する。 アルバリン粒剤# 9kg/10a スタークル粒剤# 9kg/10a 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 パダンSG水溶剤 1500~3000倍 アデオン乳剤 3000倍	# ハモグリバエ類での登録
ウラナミシジミ	初冬~春期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 アデオン乳剤 3000倍	伊豆諸島の暖地で発生が多い。
ウリノメイガ	生育期(発生初期)	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ゼンターリ顆粒水和剤 1000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 コテツフロアブル 2000倍	
シロイチモジヨトウ	生育期	・発生を見たら次のいずれかの薬剤を散布する。 カスケード乳剤 4000倍 デルフィン顆粒水和剤* 1000倍 トレボン乳剤 1000倍	* 野菜類での登録
ハダニ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ニッソラン水和剤 2000~3000倍	